

数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)
令和6年度 自己点検・評価報告書

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

自己点検・自己評価委員会	
(責任者名) 田邊 裕治	(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和6年度より本プログラムを構成する科目(IoTとAIの基礎)は、2年生全員を対象とした必修科目となった。履修登録者は142名であった。2年生だけでなく昨年度単位取得できなかった一部の3年生も受講している。
学修成果	本学では、すべての科目について定期試験終了後に各科目の到達目標について自己評価をさせている。それぞれのシラバスに到達目標が複数記述されており、それぞれについて学生が理解できたかどうかについて評価を行っている。令和6年度は、「IoTとAIの基礎」の平均スコアは5段階で4.10であった。工学共通の平均が4.21であり、若干下回る結果となった。アンケートによると一部の学生から専門的すぎるというコメントがあったので全学の必修科目であることを意識した授業内容となるように工夫する必要がある。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	教育センターにおいて「授業評価アンケート」を実施し、授業改善に役立てている。その中の、「学生自己評価」を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができる。令和6年度は、「IoTとAIの基礎」の平均スコアは5段階で3.92(講義平均は4.19)であった。平均より若干低い点数という結果になった。必修化に伴い、担当教員の構成や使用する教科書・内容が変わったことが影響していると考えられ、改善の余地がある。これらの数字と自由意見を参考として授業改善報告書を作成し教員が次年度以降の講義設計に反映させている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	アンケートによる受講者の感想は、「履修しやすかった」、「複数の教員によるオムニバス形式の授業でいろいろなことを学ぶことができる」、「座学だけでなく演習もあっておもしろかった」といったもので、15回の授業を興味を持って受講できる科目として他の学生へ推奨されることが期待できる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和6年度より「IoTとAIの基礎」が必修となったため今後は、本学に入学したすべての学生が受講する予定である。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	卒業生調査を定期的実施し、本教育プログラムを修了した卒業生の進路や活躍状況の把握が可能である。また本学における産学交流会会員企業に対して企業調査を実施し、本教育プログラムを修了した卒業生における採用状況や企業評価を把握する仕組みを設ける計画である。令和6年度については進展はなかった。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学の支援団体である産学交流会会員企業や本学が連携協定を締結している自治体や企業に対して、教育プログラムの講義内容及び実データを活用した演習等の手法について意見を収集している。これらを集約し、数理・データサイエンス・AI教育担当委員会においてプログラムの改善に活用している。令和6年度については、数理・データサイエンス教育に関して複数の企業との産情報交換を行った旨の報告があった。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムの構成科目である「IoTとAIの基礎」では、時事やトレンドなど社会での実例を基にAI等がどのような活用をされているかを好奇心を促す講義内容としている。また座学だけでなくAIのプログラムを実行する演習を通して、実際のシステムを体験するような機会を提供するようにしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	数理・データサイエンス・AI教育担当委員会にて授業評価アンケート及び産学交流会会員企業からの意見を参考に、学生の「わかりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討している。